

ジモトで座談会 ～市長と明日のまちを考えよう～ 安原地区

1 開催日時・場所

- (1) 日時 令和8年8月18日(火) 午後6時30分から8時40分
- (2) 場所 安原地区公民館 大会議室

2 テーマ

「学校と地域が共に安全で暮らしやすい環境をつくること」

- (1) 元原町バス停付近の登下校時の混雑
- (2) 道路狭小と渋滞
- (3) 大学と地域の共生

3 参加者

市長、意見交換者15人、一般傍聴者2人、市関係者7人、地区職員6人 計31人

4 次第

- (1) 開会
- (2) 地区代表者あいさつ
- (3) 市長あいさつ
- (4) 意見交換
 - ア 元原町バス停付近の登下校時の混雑
 - イ 道路狭小と渋滞
 - ウ 大学と地域の共生
 - エ その他
- (5) まとめ
- (6) 閉会



5 意見交換

- (1) 元原町バス停付近の登下校時の混雑

【安原町町会長 高柳さん】

この地区は文教施設が多数あり、まさに学都だと思います。若者の声を聞くというだけで、我々年寄りには元気が出ます。反面、時代を背負う子供たち、若者を、健全に成長させなければいけない。そういう責任を持っている地域だと思います。

信州大学が5,100人、信州大学附属関係が4,400人、これで大体9,500人。信大は除いた子供たちは美須ヶ丘高校まで含めて950人です。これに朝夕、3

時から6時ぐらいの間に地域住民が1,000人ぐらいで、1万3,000人近くの人たちが移動します。

そのため交通問題があります。道が狭いです。城下町で道路拡張が困難で非常に道が狭くて歩道がない。バスには多くの人に乗るので、乗り降りにも危険が伴います。

自転車は生徒さんが狭い中、車と擦り合うような形で通ります。美須ヶ丘高校は10件の事故と聞きましたが、大きな事故もなく幸いな地域であります。

特に危険な場所が2箇所。1つは信大の西門の交差点、西に信大の寮があり、信大生が朝大勢徒歩や自転車で通学します。善光寺街道を通る高校生もこの交差点で渡り、歩行者や自転車が集中します。歩道橋もありますが、利用されません。交差点は、自転車と接触する危険が多くなります。

元原町のバス停で乗るのが附属の子供たちです。大きな事故が起きないというのが不思議なぐらいです。歩道がありませんので、子供たちと車の間はありません。中学生ですから、お喋りしたり横向いたりして、ちょっと飛び出たりすると、子供と車が接触するのはあって当たり前で、ない方がおかしいくらい。附属の先生方はいつもここで下校指導を欠かさず行っているのが状況です。



地域とすれば、安全に登校できるようにと強く願っています。違うバス停を作れば、歩道を広げれば、あるいはスクールバスをやればいろいろなことを考えますが、中々具体的な方策が無く現在に至ります。

駅に向かう路線のほとんどはこの元原町のバス停を通ります。中学生は下校の時間帯が決まっていますので、一気に1・2・3年生がこのバス停で乗るという状況です。



反面、バスは市内で一番便利だと思います。10分に1台は来ます。特に午後3～4時台、市もアルピコの方でもバスの便を考えていただき、子供たちの登下校に便宜を図っています。しかし、美須ヶも信大も乗る。信大のところに附属小が行くようになり小学生も乗る。そして元原町(のバス停)で中学生が乗るのですが、乗り残しが出てしまう。何分かバスを待っている状況です。

それを知っている地域住民は、もうこの時間はバスに乗れません。乗らないというより乗れないのです。住民が高齢化して、バスに乗りたいて思って

も、この時間帯には動かないように生活していくのが、地域の我々の現状です。

小学校の方では信大の方で乗るよう指導しています。自己確立していない小学生には考えさせて、行動することができないので、安全を考えると指導しないといけません。中学生の場合、自分たちで考えて何とかできるのではないかと。地域も中学校にお願いして元原町で乗ることを避けていただき、でないといつ事故が起こるかわからない。犠牲者が出てからでは遅いので、起こる前に何とかしていただきたい。

松本市でも学校との連携は進めていますけど、学校と行政が連携する、地域が連携する目的は何かというと、子供の育ちだよと。今回お願いしたいことは、我々住民の発議によりますが、決定は、附属中学校の子たちにしていただきたい。この問題を投げかけ、生徒集会等いろんな方法で、中学生の自己決定によって自分たちの安全安心を確保するということを決めていく。

学校と地域との連携は稀有な例でして、人を助けることはいくらでもありますが、決定を中学生に委ねて、縁の下での力持ちをする例は非常に珍しい。学都松本としてこういう方法を全国に、一つの大きな確たるエピソードと思いますので、ぜひ強く、また松本市でもご支援いただければと思います。

【信州大学附属松本中学校教頭 三石さん】

元原町のバス停の安全確保が常に大事なテーマの1つとして取り組んでいます。

現状、下校時刻に必ず職員が、1列で並ぶよう指導をしています。ただ、雨の日は傘があり、はみ出した列が長くなります。そのときに萩町交差点あたりまで子供たちが溜まってしまい、車にも非常に迷惑をかける。

車との接触の危険性ですが、この4月から3回ぐらい地域の歩行者の方から声をいただきました。簡単に言えば、通れない。避けない中学生もいますが、現状は避けられる状況にない。そんな中、地域の方からお声をいただく経験して、子供たちに担任から『このような声があったよ』と投げかけ、子供たちに注意を促すようにしていますが、正直抜本的な解決に繋がっていないのが現状です。

そんなとき町会長さんから『今回このような機会がある。ぜひ地域と連携して取り組んでみないか』とお声掛けいただきました。この地区の学都を共に作り上げていこうと、私も校長もありがたいと思い、ぜひ答えていきたいと思っています。

具体的には、ご提案のありました、信大前の歩道のあるバス停から乗車するのは、できることとして現実味を帯びていると思います。降りる際は、北側は歩道もあり元原町で降りてすぐ学校へ来られるので、子供たちの選択肢なと思っています。

また、今並ばせているのが現状で、子供たちの自発的な安全確保には繋がっていません。今回を契機に、子供たち自身で、地域の人たちが本気で考えてくれて心配していることに触れた中で、自分たちで何とかしていこう。

並び方や、間違ったことにアプローチもあると1つ考えられる可能性としてはあ

ると思います。

本校の校是というと大げさですが、子供たち方を真ん中に教育活動を展開していますので、ぜひ今回のことを生徒会中心に、1つのきっかけとして全校で話し合う機会を設けたいと思っています。

本校の学校教育における地球市民は、地に足がついてないグローバルな話ではなく、自分たちで経験して、自分たちで見て、考えていこうを大事にしています。ぜひ子供たちに問題提起として投げかけ、自身で考え調査して決めていくことを大事にし、その方向性でぜひお願いしたい。

町会長さんからも背中を押していただき本当にありがたいと思っています。

地域の人たちとの連携の中で、子供たちが最終的に決めていける。そんな機会にしていきたいと思っています。

【臥雲市長】

今日の1つ目のテーマで、元原町のバス停問題を事前に聞いて、交通部、建設部、関連職員と改めて現状の確認と、どんなことが現実的な方策として考えられるかを話し合いました。3年前の市議会で花村議員が元原町のバス停問題を取り上げて、附属中の正門前からスクールバスの運行を検討できないかと提案があり、当時市内で可能性や課題の論点整理はしました。学校側の費用負担も含めたスクールバスの運行の問題、運行事業者、公共交通を初めとして、その頃よりバスの運転手確保といった問題が出ていますので、この選択は難しいと現在至っています。できることは、当時16時台に1便増便して、現状は16時台7本ですけれども、この通学需要への対応が現状です。

そして今もご説明いただいた元原町のバス停の危険性、そして元原町バス停の前後で、この危険性を低減させる方策は、ハード的にはほぼ手段がない。そうした中では、お2人からお話ありましたが、信大前のバス停に小学生の皆さんは行こうと誘導されている。それを中学生の皆さんにもお願いをすることが現実取れる手段。それをどのように促すかのお話をいただきました。

最寄りに行けた方がいいと皆が思うことですが、お2人から話があったように、中学生の皆さんに道路事情を知ってもらい、地域の皆さんの声、行政の交通部のしかるべき人間も合わせて、直接生徒の皆さんに話をする機会があれば、1つ何か前に進めることができると思ってお話を聞きました。

また、信大前のバス停の利用を促すのであれば、バス待ち環境の更なる充実を、我々も取り組みますので、信大前のバス停利用という方向性を、生徒と地域と行政と足並みを揃えて進めていきたいと思いました。

こういう話をしたところで、先ほど三石さんから地域の皆様の声を生徒たちに伝え、行政も私達も交通問題として、元原町バス停の改良は物理的に不可能という中で、できる手段は何かということを生徒の皆さんに理解をしていただけるよ

うな機会を早く出せればと思いました。

(2) 道路狭小と渋滞

【萩町町会長 辻さん】

萩町という交差点、左側がずっと車が数珠繋ぎになります。その信号では、美須々の子供さんの自転車で数珠繋ぎになり、交差点を突っ切って附属の方へ上がっていきます。そうすると深志の方へ左折しようとする車は、美須々高校に行く子供たちが自転車でずっと青の間に通って左折ができない。1台左折する車があると、全然前に進まない。ずっと車が渋滞していて、左折しようとする車は無理して行こうとするので、非常に危険な状況であります。

またバスも自転車が並んでいるので曲がれない。そういった状況にあります。

そして、旭町小学校から信大の方向は、朝、大変渋滞しています。曜日によって渋滞の度合いは違うのですが、自転車の数は少ないが、大変道路の幅が狭く、見ていてちょっと怖いと感じる日々です。渋滞は、日によって小学校の南からずっと繋がっています。ときには救急車が通るのですが、渋滞のために中々通れないこともありました。



問題点としてまず1つ、交通量が多いことが挙げられます。安曇野市方面から大口沢を経由して143号線を通行する車が多い。松本建設事務所の資料によると1日約9,000台、1時間当たり750台です。

2番目として交通量に見合った道路規格になっていないということが挙げられます。城下町の名残から道路が大変狭く、歩道もほとんどありません。

3番目に、高校生や学生の自転車通学が非常に多いということです。特に通学時は自転車が集中します。本年度の道路交通法改正により自転車の車道通行が多くなっています。美須々ヶ丘高校の自転車通学は約460人です。

美須々交差点から萩町交差点までの短い間に信号が6ヶ所あり、待ち時間が長いことが渋滞の原因になっていると思います。

8月3日に地域住民代表と信州大学等の懇談会があり、交通問題に関して地域から要望を伝えご回答をいただきました。

こういった状況を踏まえまして、地区からお願いしたいことでございます。安原地区は、信大を中心とした学校や病院関係者が大勢集まる地区です。学校や病院に通学・通勤・通院する人および地区住民が安全かつ安心して通行できるよう、実態調査の上、安全確保および渋滞緩和対策をお願いします。

【松本美須々ヶ丘高等学校生徒会副会長 溝上さん】

私自身は徒歩通学ですが、松本美須々ヶ丘高等学校では6割の生徒は自転車等を使っています。



冒頭で2つほど問題を提起させていただきます。

1つ目は道が狭くて怖いということです。道路交通法改正後に、自転車は車道を走りますが、道が狭いので車のすぐ横を走ってとても怖い。特に信州大学前の道は車歩道がない。通学時間帯の交通量がとても多いにも関わらず、自転車は車道

を走らなければならないところが、非常に怖いという意見を多くの生徒から寄せられています。

もう1つは事故が多発しています。美須々ヶ丘高校では、通学する道が狭く車歩道がない。昨年、今年と自転車と車の接触による事故が多く発生しています。幸い全て軽傷ですが、今後心配との声が多く寄せられました。

【臥雲市長】

この道路が非常に狭い、または歩道がないという信大周辺の道路状況の中で、自転車の通行と車やバスの通行をどう両立させるか。特に自転車通行の危険性をどう少なくするか。先ほどのバスの問題とも通ずるこの周辺の道路構造。改善をどういう方策でやっていけばいいのか。これも交通部といろいろ話をするも、中々解決できない問題でありました。

そんな中で、今指摘をされたこととちょっと違うところから話を始めさせていただきます。萩町交差点から附属中学あるいは美須々ヶ丘高校に向かって自転車で登校するときに、萩町交差点から南側に非常に長い列ができる。そして東側から来るバスの左折は、交差点の形状から膨らんで回らざるを得ない。膨らんで回ろうとするところに自転車の列が連なって、自転車は危険ですし、バスは回りきれない。

そこでまた東側には車列が連なってしまうと状態であると報告を受けました。

この交差点の角の建物のセットバックが可能であれば、中長期的な問題ですけれども考えていかなければいけない。それと道路の西側の駐車場か何かの用地を何らかの形で自転車の待機スペースにできれば、今の交差点の形状でもバスが左折できるとの報告を受けました。地権者の皆さんにそうした対応が取れるかはまだアプローチもしていないですが、萩町交差点周辺の自転車とバスや自家用車の通行をどう両立させるかということで一つの方策として交通部としても可能性を探っていかなければならないという話をしていたところです。

先ほど、この南側から来る車が、自転車の直進が優先されると左折できず、南側

にずっと車列ができてしまう現状のご指摘をいただきました。これは、恐らく交差点の形状の対応で(解決)できる話ではなく、どういう方策があるかは直ちには中々ない。

自転車は皆が最短ルートで行きたいのが当然だと思うのですが、少し回り道して、今の道路構造を変えられないとすれば、安全性を考えて違う道を通行する可能性を探れないかを、この自転車問題では考えていきたいと思っています。

美須ヶ丘高校の生徒の皆さんが、松本駅から自転車で高校に行こうとしたときに、どこかの段階で早めに、女鳥羽川の脇の道を通行することの安全性や利便性はあるのか。少し大回りになっても危険性を抑えられるルートはどこだろうというのを共に考えて、『そこは選択肢になるよ』というようなことを生み出していけないか。この萩町交差点の二重三重の非常に危険で難しい状況を考えると、ここを何とかすることではなく、他に選択肢を見出すことを一緒に考えられないだろうかということを、この問題では思いました。

それと、信州大学と地域の皆さんとの対話・要望という部分。大学側の返答は自主的な指導を学生にするのは大学側として難しいと思っているのか、踏み込んだ回答ではなかったと受け取りました。この部分について、松本市の交通政策を担う交通部が住民自治局と共に、大学側と、ここちょっと提起をされていますが、実態調査をした上で何らかの対策を考えられないか、交通部が一步踏み込んでいくということとはできないだろうかとお話を聞きながら思いました。この点については、事前により議論をしてなかったのですが、交通部長どうですか。

【柳澤交通部長】

信州大学の駐車場に入る車で周辺が渋滞するという話。こちらは立体駐車場ができた頃からその課題が生じ、それとあわせて周辺の交通量の多さや道路問題等もあり、渋滞の発生は承知しています。先ほど市長からもご紹介ありました花村議員の質問の中にも、そういった課題がある上で、渋滞対策を問題提起していただいた経過もあります。

交通部としても現地調査等はしていますが、問題を打開する方策が見出せてない部分です。駐車場の入口は大学職員の方が誘導をしていますが、どうしても場所が1ヶ所で、東西南北の女鳥羽川沿いからの車が集中していると思います。

交通部として状況をしっかり整理をする中での渋滞対策、それから大学側ともう少し具体的な話をした中で、先ほど大学側の回答にもありました時差出勤や通勤方法の必要性につきまして、しっかりと対話して解決に向けて進めていきたいと思っています。私も今一度大学側と対策に向けての対応を検討していきたいと思っています。

【臥雲市長】

自転車のルール。今回自転車の青切符制度の導入によって、今まで必ずしも明確でなかったことを明確にして、そして自転車は車両では必ずしもないような認識のもとで、これまで通行をしてきた。

これから特に自転車を長く使っていく小学生・中学生・高校生に対して、松本市が教育現場としっかり連携して、松本市の交通部局が警察にも協力を求めて、自転車のルール・マナーを小学校、少なくとも高学年からしっかりと学んでいく。それを机上だけではなく、実際の自転車の乗り方を警察の協力も得て学んでいく。そういう取り組みの強化は、中期的にはなりますけれども、上の世代、大人の大学生も含めた大人の自転車通行のあり方の向上といったことにも繋がっていく。即効性のある対応ということでは不十分かもしれませんが、地道に取り組んでいく必要があると思っています。

(3) 大学と地域の共生

【旭町町会長 赤羽さん】

信州大学が地域にあることは地域住民にとって大きな魅力であり、大きな特徴です。しかし、地域住民との接点が少なく、交流の機会が限られています。学生が持っているエネルギー・パワーが地域に生かされていない。もっと関わりを持ちたいというのが現状です。以前に、萩町町会と関わった空き家活用サークルがありましたが、こちらは規模が縮小し、7年の活動の後、今は活動を行っていません。

次に地域との関わりの課題ということで、学生は授業やアルバイトとの両立が難しい。実際自分のこととして振り返ってみても、地域はあまり関心のあるものではありませんでした。

地域の活動内容を十分知らない学生が多い一方、学生のサークル活動などは地域では十分に知られていない。信頼関係を築く、もっと関わりを持つには、時間が必要であり、一時的な関わりでは、継続的な関わりに繋がりにくい。特に信州大学は、学部が県内に点在していることから4年間大学生の全てが松本に在籍していないことも大きな理由の一つです。

地域住民代表と信州大学との懇談会にも大学との関わりについて要望し、回答をいただきました。

私達は学生ともっともっと交流の機会を増やし、学生の皆さんが短い時間ではあっても、『安原地区に暮らせてよかったな。松本サイコー』と、言っていただける関係を望んでいます。

最後をお願いしたいことです。学校、市民、行政が継続的に交流できる仕組みを構築し、学生も定住意識の醸成に繋がることを期待します。そして、学校と地域がともに安全で暮らしやすい環境により一層なることご協力をお願いいたします。

【笑福ごはん代表 浅井さん】

笑福ごはんを立ち上げたのは1年ちょっとぐらい前で、地域の皆さん、年齢関係なく、食で繋がればという思いで立ち上げたサークルでした。松本市地域チャレンジ応援事業にも参加させていただき、少しずつ地域の方にも浸透してきています。

7月1日に信大カリ一部の皆さんとカレーを作るっていう企画を開催しました。講師はカリ一部で、関わったのは偶然だったのです。

学生の方たちと繋がるっていうことが難しい時代です。最近特殊詐欺が横行し、どちら側から声をかけても、ちょっと疑いの目で見られ、中々うまくいかないっていうのが現状です。

偶然カリ一部が、公民館の受付に来た時、部長とお話ができ、すごく地域の方たちを繋がりたいっていう意識を持っていた方で、地域の皆さんとカレーを作って交流を持ちたいということでこの機会が実現しました。

今後も続けたいと思いますが、学生さんは学業が本業で、アルバイトや部活と色々と、次をすぐにはできないですが、カリ一部だけではなく、他の学生さんたちと繋がればというのが、今切に願うことです。学生の力ってすごく大事だと思っています。

今、どういう災害が起こるかわからない。母親の立場ですが、うちの子は他県の大学で一人暮らしをしています。何が心配かというと、災害が起きたときや病気になったとき、誰も対応できない状況があって、そういうときに、例えば安原地区でいくと、大学が全て近くにあって、地域の方たちと顔見知りになっていけば、何かのときに思い出して力になってくれないか、逆に顔見知りで私達地域住民が学生さんのパワーを借りてウィンウィンの関係で一緒に生活していけたらと強く願っています。それを上手く市の方々に繋げてもらえればと笑福ごはんはそういう願いを持っております。

【信州大学学生 村松さん】

ボランティア組織が大学内に一応あるのですが、私も参加しているし、知り合いに幹部もいるので、ぜひ何か関わりを増やしていきたいと思っています。

地域課題をとりあげて授業は私も受けていて、各地からいろんな方を呼んだ講演、お話を聞くっていう形の授業が多いと思っています。

地域住民と学生が交流するイベントとか、意見交換は、私もこういう座談会が初めてで緊張していますが、機会があればぜひ参加していきたいと思っています。

大学に副専攻で、地域と関わるローカルイノベーションコースがあり、所属をしますが、授業、合宿を通じて地域課題を取上げ解決していく形の授業ですが、企業さんと連携が多いと

思っています。本当に近くの地域の方との事業、それ以外でも何か関わっていた

いと思っています。

伝統工芸品が好きで、教えてくれる方と関わって、松本はいいなと思っているので、地域と繋がると、新たな繋がりが出てくる。最初の一步をどうやって踏み出せるかが結構重要だと振り返って思います。

【臥雲市長】

笑福ごはんが接点を持ったのは、“地域とかボランティアとか”という構えたものでなく、自分の好きなこと、興味のあることの仲間が集まったサークル活動です。

カリ一部とのコラボを見たとき、自分の好きなことを、この人たちとやっても思えるような、敷居の低さを私達ができる情報提供・情報収集で、スタートができるかなと、お話を伺いました。

松本市役所職員の最近の信大生の志望者は右肩上がりと感じています。市役所志望予備軍が一定程度いると思います。市役所職員になったばかりの大学を卒業して間もない信大 OB 職員、そういう人たちのチャンネルみたいなものも、私達がその地域の大学と繋がりたいと思っている方々に何らかのきっかけ作りとして提供できる場所があるかなと話を伺いました。

地域で求めている具体的な繋がりを生み出すには、少し小さく色々なチャンネルが必要になる。その仲介役が市役所だと思います。

楽しいおせっかいを、市役所から皆さんへ、地域の皆さんが学生の皆さんへ、きっかけ作りをやっていただけて、学生と結びついて、このカリ一部との関係がいろいろところで生まれてくればと思いお話を伺いました。

最後に今の学生の皆さんの方が公共的なことへの関心の高さや、きっかけがあれば関わりたいと思っている気持ちは大きいと思います。その繋がりを、我々が汗をかくたり、皆さんの声を届けたりしながらアプローチをしていただければなと思います。

【新町町会長 大和さん】

私、16日の午前中に送り火をたいておりました。私の横を通り過ぎた男の学生さんがいました。後から見たら、腕には信大剣道部という名前がありました。

勇気をもって多分声をかけてくださったのです。「おじさん。まだ火がついていますよ。消えていませんよ」と言って、私に声をかけてもらいました。

それで「えっ？」と思って、まだそこから立ち去ろうとしたわけではないんですが、両サイド15mぐらい離れたところで2つのかんばに火をつけていました、一つが消え去ろうしていたのですが、『まだ火がついてたよ』っていうことを、とても勇気を持って声をかけてくださったこと。これは送り火という儀式の1つで、こういう風に火をつけて魂をお送りするものだよっていうお話をしました。そういう時間が取れたのも、声かけてくださったこともとても嬉しかった。

年寄りを楽しませるには声をかけてくださることだけで十分だということを紹介したかったです。

【信州大学学生 村松さん】

地域の方から声をかけていただくというのは嬉しいというか、ちゃんと認識されているのだからと思います。地域の中にそういう顔見知りが増えていくと、この場所いいな、残りたいなっていう気持ちが大きくなるので、ちょっとした関わり合いが増えていくことはいいなって思います。

【松本美須々ヶ丘高等学校生徒会副会長 溝上さん】

今のところ志望先が県外で松本に戻ってくるかまだ分らないですが、外に行っても地域の方と関わったり、送り火もそうですけど、そういうものが知れるとすごい嬉しいなと感じるので、教え合いや好意が広がっていくことがすごいいいと感じました。

(4) まとめ

【臥雲市長】

バスや自転車の問題も、クリアカットな解決策をお示しできたわけではありませんけれど、皆さんと一緒に少しでも物事を改善するとか、状況を前に進めるということについて、ささやかかもしれないけど何か始めようと。交通の問題と地域と学生の問題について、いろいろなヒントをいただけたなと思っています。

そして改めて、センター長もそうですが、松本市役所の職員の仕事は橋渡し役・繋ぎ役だと再確認をしました。この橋渡し役・繋ぎ役を一体どこどこを、どういうことで繋がられるのか。



私達ができることにも限界がありますし、迅速な、でもピントを外さずに。初動こそが一番皆が見いだせないところですから。皆さんの初動を後押しする繋ぎ役・橋渡し役をやる。それができたときの職員の達成感とか満足感っていうのは非常に大きなものになること、私自身もそれこそが市役所冥利に尽きるということだと思っています。

ぜひ今日の話題や時間だけにとどまらず、日常的にまずはこの地域の問題をセンター長にぶつけていただいて、そこからセンター長が市役所のいろんなところに繋いで、こういうことだったらできるじゃないか、こういうことは一緒にやればやりませんかといった動きを広げて深めていきたいと思っています。ありがとうございました。

【廣田住民自治局長】

皆さんの今日お話を一つ一つしっかり聞かせていただきまして、大学等地域の関わりについて、組織的な関わり方、システムの関わり方でちょっといくつかアプローチあるので、センター長を通じてご相談いただければ対応できると思います。

センター長とか、直接市民と接する人が、いかにその人をちゃんとキャッチをして、それをストックして、他の人が来たときにこの人と繋げるといいなという風にしていくこと。ある意味センスだと思うのですが、市の職員、特にセンター・公民館の仕事には必須のセンスです。それぞれのセンター長・センター職員が、そういうセンスを持つようにしっかりと働いてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

(6) お礼

【安原地区町会連合会長 野村さん】



本日は、地域の現状について率直な意見交換をさせていただいたと思っています。

先ほどの自転車のお話がありました。1人1人が自転車のマナー違反をしている訳ではないです。集団だったとき、集団心理の怖さです。それが出ていると思います。ぜひ帰ってマナーの講習会をお願いします。それから自転車の専用信号、できれば朝夕の時間帯だけでも何とかならないかと考えてくださればと思います。

本日の懇談会を通じて、行政の皆様、それから私たち住民、学校。まち作りに対する思いを共有できたと、大変な有意義だったと感じております。

これで終わらず、本日いただいたご意見、前向きな回答を地域一丸となってより良いコミュニティ作りに励んでいく所存でございます。

市長におかれましても、ぜひこの地域の切実な声を酌み取っていただき、今後の市政運営にお役に立てればと思います。

本日はありがとうございました。